

SYMPHONY



TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA

Lorenzo VIOTTI, *Music Director*

80th

ANNIVERSARY

No.153

SAT. 3RD OCTOBER

TOKYO OPERA CITY SERIES

No.746

SUN. 11TH OCTOBER

SUBSCRIPTION CONCERT

Special Concert

MON. 12TH OCTOBER

YOKOSUKA SPECIAL CONCERT

No.107

SAT. 17TH OCTOBER

KAWASAKI SUBSCRIPTION CONCERT

No.149

SUN. 18TH OCTOBER

NIIGATA SUBSCRIPTION CONCERT

2026

OCTOBER

10

音楽監督 ロレンツォ・ヴィオッティ
桂冠指揮者 ユベール・スダーン
名誉客演指揮者 大友直人
永久名誉音楽監督 秋山和慶 ◆
永久名誉指揮者 アルヴィド・ヤンソンス ◆
上田 仁 ◆
遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター 小川ニキティングレブ
景山昌太郎
小林竜成

コンサートマスター 吉江美桜
田尻 順

会 長 澤田秀雄
理事長 岡崎哲也
副理事長 平澤 創
依田 異
専務理事 廣岡克隆
理 事 阿部武彦 竹中平蔵
池辺晋一郎 永山 治
伊藤美樹 夏野 剛
大橋 博 増岡聡一郎
コシノジェンコ 森 京子
菅谷貴子 若本博隆
監 事 寺西基之
渡邊芳樹
評議員長 梅沢一彦
評議員 穴水 孝 星 久人
鷺海量明 森川 智
片山泰輔 芳野まい
加藤英輔
特別顧問 飯島延浩 福田紀彦
窪田雅己
永久名誉顧問 金山茂人 ◆

1st Violins

○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins

○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史紘
河裾あずさ
小山あずさ
鈴木浩司
吉田みのり
阿部真弓
坂井みどり

Violas

○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応興
鈴木まり奈

Cellos

☆伊藤文嗣
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行 ●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり

Double Basses

■助川 龍
○コーディネーターズ
ローズブーム
○北村一平
○久松かず
内岡沙月
安田修平
渡邊淳子

Flutes

■相澤政宏
○竹山 愛
○知久 翔*

Flute & Piccolo

濱崎麻里子

Oboes

○荒 給理子
○荒木良太 ▲
浦脇健太

Clarinets

○エマニエル・スヴー
○吉野亜希菜
近藤千花子
務川広貴

Bassoons

○福士マリ子
○福井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns

○上間善之
白井有琳
藤田麻理絵
津守隆宏 *

Trumpets

○澤田真人
○ローリー ディラン
野沢岳史 ●
松山 萌
早野舞花 *

Trombones

○大馬直人
○鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

○清水 太
○山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp

渡辺沙羅

Librarians

林 知也
カーン日和 *

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

栄誉団員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局シニアディレクター

藤原 真

編成局

パーソネルマネージャー

謝名元 民

楽団委員

小西応興(議長)
福留史紘(書記)
北村一平
清水 太
清水泰明
綱川淳美

事務局長

荒井宣之

事務局

□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
桐原美砂
後藤絢音
長久保宏太郎
三橋真琴
山田道子
山本未央子
■榎川純子
澤戸雅美 *

名誉団員

深江泰輔
三木謙雄 ◆

団 友

大野佳和
安藤史子
池田 肇
石川晴弘世
今村和弘
岩澤淳子
土原規照
土原末莉
内田彬雄
内田乃例子
宇都 実
梅田 学
大隅雅人
大塚正男
大生展男
大和田浩明
大和ルース
狹野 昇
奥田昌史
音川健二
加藤谷直美
笠原勝二
甲斐さち
加藤幸子
加藤健吾
金澤 茂
久保田一穂
熊谷仁士
黄原亮司
小林照雄
小林利彰
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真
塩谷しずか
篠崎 隆
菅野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
曾根敦子
高野成之
武田英昭
田中貴輔
千村雅信
十亀正司
黒山 佑
永井聖乃
中塚和良
中塚博則
中山 智
新澤義美
西依智子
西脇秀澄
野村貴澄
馬場隆弘
原田美保子
日野 奏
ベアテン・ボーマン
前田健一郎
松崎里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本直樹
宮本 睦
森みさ子
諸橋健久
渡辺 功
渡辺哲郎
渡辺裕子

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を持ち出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

10/3

SAT

東京オペラシティシリーズ 第153回

2026年10月3日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.153

Sat. 3rd October 2026, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

広上淳一[指揮]

ケヴィン・チェン[ピアノ]

小川ニキティンブレ[コンサートマスター]

HIROKAMI Junichi, Conductor

Kevin CHEN, Piano

OGAWA Nikitingleb, Concertmaster

ベルリオーズ: 歌劇「ベアトリスとベネディクト」
から序曲(8')

BERLIOZ : Béatrice et Bénédict
– Overture (8')

ショパン: ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調
op.11 (43')

CHOPIN : Piano Concerto No.1 in E minor
op.11 (43')

I. Allegro maestoso

II. Romanze: Larghetto

III. Rondo: Vivace

I. Allegro maestoso

II. Romanze: Larghetto

III. Rondo: Vivace

休憩(20')

Intermission(20')

ムソルグスキー (ラヴェル編):
組曲「展覧会の絵」(35')

MUSSORGSKY(Arr.RAVEL) :
Pictures at an Exhibition (35')

●主催/公益財団法人 東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.6をご覧ください



アンケート
ご協力をお願い

10/3

SAT



© Masaaki Tomitori

HIROKAMI Junichi

Conductor

広上 淳一 [指揮]

東京生まれ。尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。26歳で第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、コロンバス響、京都市交響楽団のポストを歴任。フランス国立管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響、サンクトペテルブルク・フィルなどへ客演を重ねる。オペラの分野でもシドニー歌劇場へのデビュー以来、数々のプロダクションを指揮。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢アーティストティック・リーダー、マレーシア・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、日本フィルハーモニー交響楽団フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団広上淳一。また、東京音大指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。2024年第75回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

Born in Tokyo, Junichi Hirokami studied conducting at Tokyo College of Music. In 1984, at the age of 26, he won the inaugural Kondrashin International Conducting Competition in Amsterdam. He has since conducted major orchestras worldwide and held positions with the Norrköping Symphony Orchestra, Limburg Symphony Orchestra, Royal Liverpool Philharmonic and Columbus Symphony Orchestra. From 2008 to 2022, he served as Chief Conductor and Music & Artistic Advisor of Kyoto Symphony Orchestra for 14 years, receiving the Suntory Music Award with the orchestra in 2015.

Currently he serves as Music Director at Malaysian Philharmonic Orchestra, Artistic Leader at Orchestra Ensemble Kanazawa, Friend of JPO / Artistic Advisor at Japan Philharmonic Orchestra and Friendship Conductor at Sapporo Symphony Orchestra and Junichi Hirokami at Kyoto Symphony Orchestra. He serves as professor of conducting division at Tokyo College of Music.



©Tat Keng Tey

Kevin CHEN

Piano

ケヴィン・チェン
[ピアノ]

カナダのエドモントン生まれ。8歳でカナダ音楽コンクール優勝を果たし早くから全国的な注目を集めた。

詩的な感性、自然な雄弁さ、そして目を見張る技術で称賛され、同世代でも独自の存在としてたちまち頭角を現し、フランツ・リスト国際コンクール、ジュネーヴ国際コンクール、ルービンシュタイン国際コンクールなどで優勝。2025年にはショパン国際コンクールで第2位を受賞し、ポーランドの批評家からは「技巧の誇示ではなく、完全なる音楽の物語」と評された。

これまで、ワルシャワ・フィル、スイス・ロマンド管、台北響、ハンガリー国立管などのオーケストラと共演。またラ・ロック・ダンテロン国際音楽祭、「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭、ドゥシニキ国際音楽祭などの音楽祭に招かれ、カーネギーホール、ベルリン・フィルハーモニー、ミュンヘン・プリントレーゲンテン劇場、セント・ジョーンズ・スミス・スクエア、台北国立コンサートホールなど主要な演奏会場で演奏している。

現在はハノーファー音楽演劇大学でA.ヴァルディ教授に師事。

Canadian pianist Kevin Chen has emerged as one of the most distinctive voices of his generation. He won Second Prize at the 2025 International Chopin Piano Competition in Warsaw, following First Prizes at the 2023 Arthur Rubinstein International Piano Master Competition, the 2022 Concours de Genève, and the 2021 Franz Liszt International Piano Competition in Budapest.

Chen has performed with leading orchestras including the Warsaw Philharmonic, Israel Philharmonic, Orchestre de la Suisse Romande, Hungarian National Orchestra, and Calgary Philharmonic, and has appeared at major venues and festivals across Europe, Asia, and North America. His performance of the complete Chopin Études Op. 10 during the 2025 Chopin Competition drew wide attention and acclaim.

Born in 2005, Chen began piano studies at the age of five and currently studies with Arie Vardi at the Hochschule für Musik, Theater und Medien Hannover.

エクトル・ベルリオーズ(1803~1869)

歌劇「ベアトリスとベネディクト」から序曲

ベルリオーズ、ユゴー、ドラクロワ。19世紀フランスにおいて、音楽、文学、絵画の各分野に花開いたロマン派芸術。そのなかでベルリオーズの《幻想交響曲》は、ベートーヴェン以後の交響曲の可能性を大きく広げた作品として、現在もお鮮烈な印象を与えている。大胆な発想と大規模かつ独奏的なオーケストレーションによって、光輝くような音楽を生み出したベルリオーズは、指揮者、著述家、評論家としても活躍した。その多彩な活動は、ロマン派の芸術家そのものと言える。

しかし、その革新的な音楽は生前、シューマンやリストに高く評価された一方で、フランス国内では必ずしも十分に評価されたわけではなかった。5幕からなる大作オペラ《トロイアの人々》も、パリで全曲が上演されることはなく、1863年に第2部のみが初演された。ベルリオーズ最後のオペラとなった《ベアトリスとベネディクト》もまた、パリではなくドイツのバーデン＝バーデンで1862年8月に初演されている。

ベルリオーズはかねてから、夏を避暑地バーデン＝バーデンで過ごしていた。《ベアトリスとベネディクト》は1860~1862年に作曲され、1862年8月に同地の新劇場で初演されている。原作はシェイクスピアの戯曲『から騒ぎ』で、台本(フランス語)はベルリオーズ自身が手がけた。ベルリオーズの作品には、シェイクスピアと結び付いたものが少なからずある

が、最後に選ばれたのはロマンティック・コメディだったのである。

舞台は、イタリア・シチリア島の美しい港町メッシーナ。ベアトリスとベネディクトは会えば口喧嘩が絶えないが、家族や友人たちは策略をめぐらせ、二人を結び付けようとする——。序曲は、オペラの終わり、ベアトリスとベネディクトの二重唱から取られた快活な音楽で始まり、続いて第2幕のベアトリスのアリアによる、ゆったりと憧れに満ちた旋律が現れる。ユーモアと抒情、そして華やかな響きにあふれるこの序曲は、オペラ全曲が上演される機会は多くないものの、ベルリオーズの人気曲のひとつとして広く親しまれている。

石川亮子 Text by ISHIKAWA Ryoko

作曲:1860~1862年

初演:1862年8月9日、バーデン＝バーデン新劇場。ベルリオーズ自身の指揮。

編成:ピッコロ、フルート、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、コルネット、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

フレデリック・ショパン(1810~1849)

ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11

ピアノ音楽の全盛期であった19世紀ロマン派の時代。それを後押ししたのは、楽器としてのピアノの完成であった。ピアノは、この時代に行われたアクション改良や、鋼鉄製のフレームや弦の採用などによって、幅広い音域と豊かな音量、さらに多彩な音色を備えた、近代的な楽器へと進化を遂げていく。作曲家とピアノ製作者は不可分の関係にあって、「ピアノの魔術師」リストは、パワーあふれるエラール社のピアノを、そして「ピアノの詩人」ショパンは、繊細で気品漂う音色を持ったブレイエル社のピアノを愛した。

ポーランドを離れ、1831年以降はパリに定住したショパンは、リストの愛人ダグー伯爵夫人のサロンで、男装の小説家ジョルジュ・サンドと出会い、充実した創作の時を過ごしていった。一方、ショパンが残した2曲のピアノ協奏曲は、いずれもポーランドを離れる前に書かれたもので、初恋の女性とされる、コンスタンツィア・グワドコフスカ(ワルシャワ音楽学校の声楽科の学生だった)への思慕が、曲には込められているとされる。またその頃の習慣に従って、若き「ピアニスト兼作曲家」を売り出すべく、自らが手がけた協奏曲であるだけに、華やかな演奏技巧を駆使する部分も少なくない。実際のところ、ホ短調に続いて、2作目として作曲されたホ短調のピアノ協奏曲は、先に1833年にパリで出版され「第1番」となったことが示すように、より充実した書法、堅固な構造を持ち、

若きショパンの出世作となったのだった。

ショパンのポーランド時代の青春そのものと言える、ピアノ協奏曲第1番。曲は以下の3楽章からなる。

第1楽章:アレグロ・マエストーソ 伝統的な協奏的ソナタ形式による。長いオーケストラ提示部の後に、ようやく独奏ピアノが登場し、ホ短調の第1主題に続いて、ホ長調の第2主題を奏でる。音楽にはフンメルをはじめとする、その頃のヴィルトゥオーゾたちの影響も色濃い。

第2楽章:ロマンス:ラルゲット ロマンスと題された美しい楽章。ノクターンの書法によって、優雅に流れるこの楽章の音楽を、ショパンは「たとえば、美しい春の月明かりの夜のような」と述べた。

第3楽章:ロンド:ヴィヴァーチェ ロンドによる華やかなフィナーレ。序奏の後に登場するロンド主題は、クラコヴィアクの表現を取り入れたもので、クラコヴィアクはポロネーズやマズルカと並び、ポーランドの代表的な民俗舞踊である。途中には、さらなる民謡調のエピソードも登場する華麗なる「ロンド」で、当時から大変人気があった。

石川亮子 Text by ISHIKAWA Ryoko

作曲:1830年

初演:1830年 ワルシャワ

編成:独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン、ティンパニ、弦5部

モデスト・ムソルグスキー(1839~1881)/モーリス・ラヴェル(1875~1937)

組曲「展覧会の絵」

原曲はピアノ組曲。1874年6月、ムソルグスキーの友人だった建築家・デザイナー・画家ヴィクトル・ハルトマンを追悼して作曲された。ハルトマンはフランスやイタリアの風物を描く一方で、スラブの民俗的表現をも追及した。その遺作展を訪ねた作曲者は、亡き友の絵画から強い感銘を受け(それは「絵」を表すロシア語のタイトルに表れている)、絵を見入る自身の姿を交えて音楽作品へと昇華させた。そして一気呵成に書かれたこの名曲には、その世界に尽きせぬ魅力的な余白と奥行きが備わることになった。その充実を求めて歴史的に多くの編曲、ロックなど他ジャンルの音楽での解釈、バレエ化、演劇化がなされてきた。オーケストレーションも何人もの音楽家が手掛けている。

その代表が1922年に作成されたモーリス・ラヴェルによる編曲である。名指揮者トスカニーニから「オーケストレーションの教科書」と評され、オリジナルのピアノ組曲の普及にも大きな役割を果たした。**プロムナード** 散策。ハルトマンの遺作展に赴く作曲家。

小人 こびとの頭と足のおもちゃのデザイン画。

プロムナード 敬虔な気持ちになる。

古城 通説では「中世イタリアの城を背に歌を歌う吟遊詩人」。

プロムナード 足取りが重くなる。

テュイルリーの庭 パリのテュイルリー公園で遊ぶ子どもたち。

ビドロ ポーランドの、牛に曳かれた大きな車輪の荷馬車。諸説あつて謎が深い。

プロムナード 物悲しい気分になる。

殻を付けたひな鳥のバレエ 原画はバレエの衣装のデザイン画。

サミュエル・ゴールデンベルクとシュミイレ 金持ちのユダヤ人と貧乏なユダヤ人の肖像画。近年の研究では後者はイタリアの老いた農夫を描いた絵とされる。

リモージュの市場 市場の喧騒と飛び交う意味のない噂話。

カタコンブ(ローマの地下墓地)~死者とともに死者の言葉をもって 原画は実際にはパリの地下墓地の絵。絵を介してハルトマンの精神と交流する作曲家。

鶏の足の上の小屋 スラブ民話の魔女バーバ・ヤガーの小屋の形をした置時計のデザイン画。

キエフの大門 古都キエフ(ウクライナのキーウ)に建設予定だった凱旋門の図案。スラブ文化とハルトマンへの賛歌。

高久 暁 Text by TAKAKU Satoru

作曲:1874年6月、1922年編曲

初演:1922年10月19日パリ、セルゲイ・クーセヴィツキー指揮、パリ・オペラ座管弦楽団(現・パリ国立歌劇場管弦楽団)

編成:フルート3(ピッコロ持替2)、オーボエ3(イングリッシュホルン持替1)、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、アルトサクソフォン、ホルン4、トランペット3(ピッコロトランペット持替)、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、ダムダム、鞭、ラチェット、シロフォン、グロッケンシュピール、鐘、ハープ2、チェレスタ、弦5部

10/11 10/12

SUN

MON

第746回 定期演奏会

2026年10月11日(日) 14:00 サントリーホール

Subscription Concert No.746

Sun. 11th October 2026, 14:00 Suntory Hall

横須賀特別演奏会《横須賀芸術劇場リニューアル記念》

2026年10月12日(月・祝) 14:00 よこすか芸術劇場

YOKOSUKA Special Concert

Mon. 12th October 2026, 14:00 YOKOSUKA ARTS THEATRE

ロレンツォ・ヴィオッティ [指揮]

景山昌太郎[コンサートマスター]

Lorenzo VIOTTI, Conductor

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

J.S.バッハ(齋藤秀雄編):

シャコンヌ(16')

J.S.BACH(Arr. SAITO Hideo):

Chaconne (16')

ショスタコーヴィチ:交響曲 第10番 ホ短調
op.93(57')

SHOSTAKOVICH: Symphony No.10
in E minor op.93 (57')

I. モデラート
II. アレグロ
III. アレグレット
IV. アンダンテ:アレグロ

I. Moderato
II. Allegro
III. Allegretto
IV. Andante: Allegro

*当公演は休憩がありません。

- 主催/公益財団法人 東京交響楽団
- 共催/公益財団法人横須賀芸術文化財団(10/12)
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(10/11)
文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等と芸術団体との連携による地域活動基盤形成支援事業) |
独立行政法人日本芸術文化振興会(10/12)
- 後援/在日スイス大使館(10/11)

楽曲解説はP.11をご覧ください



アンケート
ご協力をお願い

10/11 10/12

SUN

MON



©Tomoko Hidaki

Lorenzo VIOTTI

Conductor

ロレンツォ・
ヴィオッティ

[指揮]

Music Director

音楽監督

1990年スイス・ローザンヌ出身。カダケス国際指揮者コンクール、ライプツィヒMDR指揮者コンクールなどで優勝し、2015年ザルツブルク音楽祭にてネスレ・ヤング・コンダクター賞を受賞。グルベンキアン管弦楽団首席指揮者(2018~2021)、オランダ国立歌劇場音楽監督(2021~2025)を歴任し、現在ネーデルラント・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。

これまでにウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管を含む世界を代表するオーケストラを指揮、オペラにおいてもウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座などに客演。ウィーン・フィルのシェーンブルン・サマーナイト・コンサートに出演するなど、注目を集めている。

2014年、東京交響楽団との共演で日本デビュー。初共演から10年を迎えた2024年8月、東京交響楽団次期音楽監督に任命され、2026/27シーズンより第4代音楽監督に就任。2026年9月には2033/34シーズンまでの任期延長を発表した。2028年8月からはチューリッヒ歌劇場音楽総監督に就任する。

Born in Lausanne, Switzerland in 1990, he is an award-winning conductor, having won major competitions including the Cadaqués Orchestra and MDR Conducting Competitions, and receiving the Nestlé Young Conductors Award at the 2015 Salzburg Festival. He served as Chief Conductor of the Gulbenkian Orchestra (2018–2021), Music Director of the Dutch National Opera (2021–2025), and currently Guest Principal Conductor of the Netherlands Philharmonic Orchestra. He has conducted leading orchestras such as the Vienna and Berlin Philharmonics, Royal Concertgebouw and appeared at major opera houses including Vienna State Opera, Paris Opera, and La Scala. He debuted in Japan with the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 and becomes 4th Music Director in 2026.

He will become the General Music Director of the Zurich Opera House from August 2028. He will become the General Music Director of the Zurich Opera House from August 2028.

J.S.バッハ(1685~1750)／齋藤秀雄(1902~1974)

シャコンヌ

ヨハン・ゼバスティアン・バッハがのこした「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番」の終曲「シャコンヌ」は、「ラメント・バス」(嘆きの低音)と呼ばれる低音進行をくり返しながら多数の変奏をくり広げていく曲。フェルッチョ・ブゾーニによるピアノ独奏版をはじめとして、さまざまな編曲版が編まれてきた名作のひとつ。本日は、現代日本の音楽教育の巨頭である齋藤秀雄による管弦楽編曲版をお届けする。

齋藤は、桐朋学園をはじめとする学生たちのために、オーケストラのアンサンブルや表現力を学ぶための実践的教材として、この編曲をてがけた。そのため、弦楽器だけでなく管楽器にもそれぞれ重要な役割がわりふられている。

チェロ奏者として出発し、日本の弦楽指導に生涯をささげた齋藤ならではの視点は、音色の拡大にとどまらない。原曲はヴァイオリン独奏曲であるが、その重音奏法がはらむポリフォニー(複数の声部からなるスタイル)を、さらにオーケストラの各セクションへと音色的にも空間的にも読みかえていく。ただし、たんに華やかな効果をねらうというよりは、弦楽器と管楽器の均衡を保ちつつ、密なアンサンブルによってバッハの音楽の精神性や構造美をとらえようという教育的姿勢が一貫しているように思われる。レオポルド・ストコフスキーなどの管弦楽編曲とくらべてみると、アプローチの違いを体

感することができる。

初演は1984年、東京文化会館にて、没後10年を悼む「齋藤秀雄メモリアル・コンサート」の一環でおこなわれた。のちのサイトウ・キネン・オーケストラへとつながる弟子たちが結集し、愛弟子・小澤征爾の指揮によりおこなわれた。西洋音楽の心髄ともいえるこのシャコンヌを、日本人がいかに体得したのかを示すという意味では、日本のオーケストラ史をたどるうえで欠かせない編曲といえる。

なお、齋藤は、東京交響楽団の黎明期である1951年から1953年にかけて常任指揮者を務めている。その意味で、今回の公演は当楽団の歴史を振りかえるきっかけにもなるだろう。

西田紘子 Text by NISHIDA Hiroko

作曲年(原曲): 1720年

初演(編曲版): 1984年9月18日、小澤征爾の指揮

編成: ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦5部

ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906~1975)

交響曲 第10番 小短調 op.93

本作は、1953年3月のスターリンの死後すぐに着手され、この独裁者の時代を描いたものと語られてきたが、その説はいまは疑問視されている。実際にはもっと早くから着手されており、たとえば第1楽章の素材は、1945年頃に作曲され結局は破棄されたヴァイオリン・ソナタの素材と関連している。

1990年代以降には別の事実も明らかになった。ショスタコーヴィチが第3楽章やフィナーレで、自身の名前のドイツ語つづり「D. S. Hostakovich」を音名に読み替え、これを重要な音型(譜例1)として使っている、というのはよく知られる。

じつは第3楽章では、もうひとつ別の音型(譜例2)をホルンが12回奏する。この音型は、モスクワ音楽院の教え子の名前エルミーラに由来するというのだ。本作が集中的に作曲された1953年、作曲者とエルミーラの交流は盛んになる。彼女への想いという隠れたプログラムが読みとれそうだ。

譜例1: ショスタコーヴィチの署名



譜例2: ホルンの音型



第1楽章: モデラート 3/4

序奏を経てクラリネットが第1主題、フルートが第2主題を奏する。第2主題は「24の前奏曲とフーガ」におけるフーガ第24番の主題とも関連している。

第2楽章: アレグロ 2/4

以前(上述)は「スターリンを音楽的に描写したもの」といわれてきた。

第3楽章: アレグレット 3/4

ホルン音型は、マーラー作「大地の歌」第1楽章冒頭に登場するホルンのフレーズに類似している。ショスタコーヴィチ自身はこのフレーズを、中国で不吉の象徴とされる「大猿の鳴き声」と呼んでいる。

第4楽章: アンダンテ 6/8~アレグロ 2/4

ホルン音型の最後は、5度(D-A音)を形成している。この5度は序奏の木管ソロをはじめいたところで聴かれ、じつに暗示的だ。

西田紘子 Text by NISHIDA Hiroko

作曲: 1946年~1953年秋

初演: 1953年12月17日 レニングラード、エフゲニー・ムラヴィンスキー指揮 レニングラード・フィル

編成: ピッコロ、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ3(イングリッシュホルン持替1)、クラリネット3(小クラリネット持替1)、ファゴット3(コントラファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、大太鼓、中太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タンバリン、タムタム、シロフォン、弦5部

10/17 10/18

SAT

SUN

川崎定期演奏会 第107回

2026年10月17日(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.107

Sat. 17th October 2026, 14:00 MUZA Kawasaki Symphony Hall

第149回 新潟定期演奏会

2026年10月18日(日) 17:00 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.149

Sun. 18th October 2026, 17:00 Ryutopia Concert Hall

出口大地[指揮]

マルティン・ガルシア・ガルシア[ピアノ]

小川ニキティンブレ[コンサートマスター]

DEGUCHI Daichi, Conductor

Martín GARCÍA GARCÍA, Piano

OGAWA Nikitingleb, Concertmaster

チャイコフスキー: ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23(32')

- I. Allegro・ノン・トロツポ・エ・モルト・マエストーン
- II. アンダンティーノ・センブリチェ
- III. Allegro・コン・フォーコ

休憩(20')

チャイコフスキー: 交響曲 第6番 ロ短調 op.74「悲愴」(46')

- I. アダージェ・アレグロ・ノン・トロツポ
- II. Allegro・コン・グラツィア
- III. Allegro・モルト・ヴィヴァーチェ
- IV. フィナーレ: アダージェ・ラメントーソ

TCHAIKOVSKY: Piano Concerto No.1 in B-flat minor op.23 (32')

- I. Allegro non troppo e molto maestoso
- II. Andantino semplice
- III. Allegro con fuoco

Intermission(20')

TCHAIKOVSKY: Symphony No.6 in B minor op.74 "Pathétique" (46')

- I. Adagio - Allegro non troppo
- II. Allegro con grazia
- III. Allegro molto vivace
- IV. Finale: Adagio lamentoso

- 主催/公益財団法人東京交響楽団(10/17)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、BSN新潟放送(10/18)
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))| 独立行政法人日本芸術文化振興会(10/17)
文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)| 独立行政法人日本芸術文化振興会(10/18)
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市財団グループ)(10/17)
- 後援/川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(10/17)

新潟定期演奏会は、新潟市から補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.16をご覧ください



MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL



新潟市立芸術文化会館



RYUTOPIA
10-100 新潟市立芸術文化会館



アンケート
ご協力をお願い

10/17 10/18

SAT

SUN



©hiro.pberg_berlin

DEGUCHI Daichi

Conductor

出口大地 [指揮]

2021年第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。同年クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞受賞。

第33回(2025年度)渡邊曉雄音楽基金 音楽賞受賞

大阪府豊中市生まれ。関西学院大学法学部、東京音楽大学指揮科にて学び、2023年ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン指揮科修士課程修了。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、2022年7月、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会で日本デビュー。以降日本各地のオーケストラへデビューが続いている。リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団アシスタントコンダクター (2024/5シーズン)。

広上淳一、クリスティアン・エーヴァルト、パーヴォ・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、井上道義、沼尻竜典、下野竜也各氏らの薫陶を受け、ベルリン放送交響楽団ではグラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務めた。

公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>

Daichi Deguchi is the First Prize winner of the 2021 Khachaturian International Competition (Conducting) and was awarded Second Prize (no First Prize awarded) at the Kussewitzky International Conducting Competition, where he also received the Orchestra Special Prize. He served as Assistant Conductor of the Orchestre Philharmonique Royal de Liège in the 2024/25 season and was recently awarded the 33rd Watanabe Akeo Music Foundation Music Award. Born in Osaka, Japan, Deguchi studied piano and horn before studying law at Kwansei Gakuin University. He subsequently studied conducting at Tokyo College of Music and Hochschule für Musik Hanns Eisler Berlin, graduating in 2023. His teachers include Junichi Hirokami, Tatsuya Shimono, Christian Ehwald, and Hans-Dieter Baum.

Deguchi has conducted orchestras across Europe and Japan, including the Symphoniker Hamburg, George Enescu Philharmonic Orchestra, Brandenburgisches Staatsorchester Frankfurt, and Tokyo Philharmonic Orchestra, with which he made his professional debut in 2022.



©Fadii Berisha

Martín GARCÍA GARCÍA

Piano

マルティン・
ガルシア・
ガルシア
[ピアノ]

マルティン・ガルシア・ガルシア(1996年スペイン生まれ)は、国際的に最も優れたピアニストの一人として、欧米はじめアジアの主要会場で演奏、世界中で称賛されている。

彼はレイナ・ソフィア音楽学校で学び、その後ニューヨークのマネス音楽院でジェローム・ローズの指導の下、修士号を取得。

2021年クリーブランド・ピアノ・コンクールで優勝、同年ショパン・コンクールで第3位と最優秀協奏曲特別賞を受賞、世界的に高い評価を獲得。最近では、M.プレトニョフ、V.ペトレンコ、A.ボレイコ、S.カンブルランなどの著名な指揮者、ハンブルク響、ワルシャワ・フィル、スペイン国立管、ソウル・フィルなどと共演、日本ではこれまでN響、読響、東フィル、神奈川フィルと共演、NHK-BS「街角ピアノスペシャル」に出演するなど、ますます人気が高まっている。

<https://martingarciagarcia.com>

Martín García García (b. 1996, Spain) considered as one of the pianists with the greatest international projection. He is performing at major venues in Europe, America, Asia, and is acclaimed around the world.

He studied at the Reina Sofia School of Music and he later completed a Master's in Piano at the Mannes School of Music in New York under the tutelage of Jerome Rose.

In 2021, he won first prize at the Cleveland International Piano Competition and third place at the Chopin Piano Competition, where he also received the Warsaw Philharmonic's special award for the best performance.

His recent collaborations have seen him perform with top orchestras, including Hamburg Sym., Warsaw Phil., Orquesta Nacional de España, Seoul Phil, under the batons of esteemed conductors such as M. Pletnev, V. Petrenko, A. Boreyko, S. Cambreling and etc.

10/17 10/18

SAT

SUN

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840~1893)

ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23

1874年のクリスマスの晩、モスクワ音楽院の一角ではピアノ教師チャイコフスキーが草稿段階のピアノ協奏曲を院長のニコライ・ルビンシテイン(1835-1881)の前で試弾していた。チャイコフスキーは曲の初演をルビンシテインに委ね彼に献呈する考えだったが、院長は「内容空疎、伝統的形式を無視している、スラヴ色が強すぎる」と酷評し大幅改訂を要求する。チャイコフスキーは改訂を拒否して曲を完成させ、ドイツのピアニスト、ハンス・フォン・ビューロー(1830-1894)のもとヘスコアを送った。曲の独創性を評価したビューローは1875年10月25日、自身のピアノ、ベンジャミン・ジョンソン・ラングの指揮によりボストンで初演したところ、曲はボストンの聴衆の心を掴み大成功を収めた。ルビンシテインの指摘した欠点こそ作品の魅力に他ならなかったのだ。曲はロシアでも初演されて好評を博し、ルビンシテインも評価を改めて積極的に演奏するまでとなった。現在では世界屈指の人気ピアノ協奏曲となっている。

第1楽章:序奏はアレグロ・ノン・トロツポ・エ・モルト・マエストーソ、変ロ短調、3/4拍子。4本のホルンの導入に続いて、ピアノの壮麗な和音とともにチェロと第1ヴァイオリンが有名な主題を開始する。この主題は序奏のみに登場する。次いでアレグロ・コン・スピリット、4/4拍子の主部に入りピアノが跳ねるようなリズムの第1主題を示す。物憂げな第2主題はクラ

リネットが主奏し、おおらかな第3主題はオーケストラが示す。第2主題の再現から再現部に入り、第3主題の再現を兼ねたカデンツァを経て簡潔なコーダで楽章を閉じる。

第2楽章:アンダンティーノ・センプレリーチェ、変ニ長調、6/8拍子。弦のピツィカートによってフルートが牧歌的旋律を歌い出しピアノが受け継ぐ。中間部はスケルツォ風の楽想となる。

第3楽章:アレグロ・コン・フォーコ、変ロ短調、3/4拍子。ウクライナ民謡による主題を持つロンド形式のフィナーレ。最後は変ロ長調に転じて圧倒的昂揚感のうちに全曲を結ぶ。

萩谷由喜子 Text by HAGIYA Yukiko

作曲:1874~75年

初演:1875年 ボストン

編成:独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840~1893)

交響曲 第6番 口短調 op.74「悲愴」

死期を控えた作曲家はいったいどんな作品を書くのか一誰であれ、最晩年の作品というのは、我々の理解を越えた何かを有しているように思われる。チャイコフスキーの場合、1888年の「第5交響曲」成功ののち、すぐに次なる交響曲への野望を手紙の中で表明するものの、書きかけとなった草稿に取りかかったのは1893年になってからだ。苦しみながら完成されたが、初日の9日後、突然の死が彼を襲った。

この作品の解釈する上でカギとなるのが、やはり標題である。自筆譜には「悲愴」という標題が付されているが、1891年時点では「人生」というタイトルが想定されていた。また、初演前には、親友でもあったコンスタンチン大公に「魂の全てをかけた」と伝えていることから、本作を人生ならびに創作の総決算と位置づけていたことは確かであろう。

そう考えてみたときに異色なのは、締めくくりである。理想主義で華やかな大団円がフィナーレの定番であったなか、ハッピーエンドとは程遠い終幕をあえて示す「人生」は逆にリアルだ。作品中、ケンブリッジ大学から名誉博士号が贈られるといった公的栄誉も得ていたのに、「憂鬱」「憎しみ」「不安」といった抑うつ的な気分は、終始チャイコフスキーをとらえて離さなかった。

第1楽章: アダージョーアレグロ・ノン・トロppo ソナタ形式。展開部では金管がロシア正教会の死者のための賛歌を鳴らす。

第2楽章: アレグロ・コン・グラツィア
スラブ民族色をとりいれるべく5拍子という変わった拍子をとる。

第3楽章: アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ
細かく刻まれるメロディと、行進曲風のメロディの2つが聴かれる。どちらも、この楽章がフィナーレではないかと錯覚するほどのダイナミズムに満ちている。

第4楽章: フィナーレ: アダージョ・ラメントーソ 「とくにフィナーレはレクイエムの気分にあふれる」と書き綴っているように、哀悼(ラメントーソ)が徹底的に追求される。

西田 紘子 Text by NISHIDA Hiroko

作曲: 1893年

初演: ユリウス暦1893年10月16日(新暦10月28日)サンクトペテルブルク、作曲者自身の指揮

編成: フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、タムタム、弦5部

斎藤秀雄 オーケストラに かける熱量

文 中丸美繪 (ノンフィクション作家)

戦後の日本音楽界に相次いで現れた神童や天才と呼ばれる子供達。その背景には「子供のための音楽教室」創設者の一人であり、指揮者・チェロ奏者の斎藤秀雄（1902～74）の存在があった。

父は明治の英語導入期に『実用英文典』を著し、日本の英語教育の形式を決定づけた斎藤秀三郎である。学者の家に育ったが、斎藤は中学時代にマンドリン演奏に熱中して作曲・指揮まで始め、16歳で初めてチェロに触れ魅せられた。西洋音楽への傾倒やみがたく特権的な二度の渡独を果たし、世界的チェロ奏者フォイアマンらに師事、本格的奏法を学んで帰国すると、創立直後の日本初のプロ・オーケストラ、新交響楽団（現・N響）の首席チェロ奏者となった。

斎藤は本場の音楽を日本に根付かせよとの使命感に溢れ、同僚らにレッスンを

つけ、タクトも握るようになっていった。しかし、当時のオーケストラは音楽大学卒業者で構成されていたわけではなく、愛好家や軍楽隊出身者らで、「指揮がわからねえ、半音くらいマケとけ」と言い返し、初見で本番に臨むような烏合の衆」と、N響OBは嗤って回想したものである。

斎藤は普段はユーモアもあるのに、音楽では一切の妥協を許さなかった。欧州の水準を迫って譜面台を叩き、焦りのために怒声を発し始めると、次第に楽員との乖離は大きくなった。一部の心酔者はいたが、退団を迫る署名簿を突きつけられ、止むなく涙をのんで退いた。

その後、他楽団での指揮や「オーケストラの演奏向上は室内楽から」との理念で室内楽活動もしたが、日中戦争は太平洋戦争へと拡大していた。演奏会はなくなり、斎藤は楽員に理解しやすい指揮の研

究にのめり込んでいった。

指揮は7つの基本運動に分析できる。階段を上がる時、人は自然に足を上げる。指揮も同様に自然に、言葉なしに意図が伝わるべきだ。こうして段階的に基本型を組み合わせ、弦楽器の弓のようなしなやかな動きを習得する世界初の著書『指揮法教程』が10年の歳月をかけて誕生する。

戦況悪化の中で、斎藤の眼はすでに戦後を見据えていた。早期教育を始める必要がある！ 留学の経験から晩学では世界水準になれないと痛感していたからだ。古今の名演奏家たちは必ず幼少から稽古を始め、楽々と技術を獲得し音楽の高みへ到達しているのである。

焼け野原となってまだ掘立て小屋の並ぶ東京で1948年、斎藤はピアニスト井口基成(1904~84)らと語らって「子供のための音楽教室」を設立した。明治以来の教育を補う聴音やソルフェージュ、そして合奏が眼目である。4歳から小学6年までの30人が入室し、その合奏がラジオで全国放送されると、「トンビが鷹を生む」の新聞連載が始まるほどの反響を呼んだ。翌年からは演奏旅行が開かれ、会場には「天才少年少女来たる」の看板が立てられた。彼らが各種音楽コンクールで優勝を重ねると、受け皿として'52年には桐朋学園に音楽科が創設された。

オーケストラは弦楽科必修授業である。遅刻は徹底的に戒められ「親の葬式」か「38度以上の発熱」でしか欠席できない。一人欠ければ音楽は成立しないからである。プロ演奏家の心得を学ばせ、一曲に半年をかけて鍛える。それには子供達が練

習のたびに喜びと感動を覚え、音楽の語法も学べる楽曲が必要だった。

それが『バッハ:シャコンヌ』である。バッハは音楽の起点であり、この曲は一挺のバイオリンで4声部に及ぶ多声的音楽を構築している。斎藤はそれを弦楽器群に割り振り、構造や対位法を際立たせ厚みを加えて緻密に再構築した。また、絶賛された授業「演奏解釈」では、国別に言語が在るように文化圏や作曲家ごとに独自の語法があることを伝授した。これは本国では体系的に教えない英文法を、日本人向けに解析した父同様の手法だった。

「音楽を日本の輸出産業にするのだ」と豪語し、営業活動として北米や2ヶ月の欧州旅行も決行し絶賛された。門下生はベルリン・フィルのコンサートマスターを始め、世界各地へ羽ばたいていった。

「10年経ったら帰っておいで」と海外で学んだ事を持ち帰って次世代に繋ぐよう申し渡された「使徒」達もいる。

その代表格が卒業翌年に本団初代音楽監督となり、国内オケの要職を多数務めた秋山和慶。斎藤自身、1951~53年に本団常任指揮者、58~59年には指揮者を務め、秋山にはシェフの心得も叩きこんでいた。秋山は海外で頭角を現すとベルリン・フィルから3度にわたって客演依頼があったが、定期演奏会が決定していたから断った。シェフとして当然と言い切っていた。

今、東京は世界で最も多くオーケストラを有する音楽都市である。日本の音楽教育に西洋音楽が導入されて150年。類い稀な音楽教育家・斎藤秀雄が逝って半世紀余りが経つ。

東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

※新会員の方です。ありがとうございました(9月10日現在。五十音順)。

ご
芳
名
(敬
称
略)

法
人
会
員

●プラチナ会員

株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社フェイス

株式会社ドワンゴ

●ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
株式会社エイチ・アイ・エス

環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ
株式会社モリモト

●ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ

西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新業株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
ヤマト科学グループホールディングス
税理士法人WATANABE

●シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社

月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

●ブロンズ会員

アーティスト
ホールディングス株式会社
株式会社ヴァリユーズ
カトーレック株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
神宮前耳鼻咽喉科クリニック
有限会社青史堂印刷

ニッシンエレクトロ株式会社
合同会社ハイム
株式会社BDA
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社
神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマン
ホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社

山崎製パン株式会社

匿名3社

●サークル50

伊藤 晴美	木暮 紀子
伊藤 美樹	尚彦
沖田 陽子	積恵
鷺海 量明	匿名 5名

●サークル25

荒木 陽子	手塚 和彦
猪田 隆文	戸川 二郎
井上 孝昭	長瀬 雅則
*大崎 朋子	平山 智史
岡野 一哉	山本 誠一郎
後藤 実	匿名 2名

●サークル10

天野 佳和	高田 光官
五十嵐 建平	麻子 幸一
井澤 菜緒子	塚己 正行
石川 晴依世	忍 建一
岩田 新誠彦	谷川 啓明雄
内山 誠彦	千葉 清隆・直子
梅沢 麻衣	中澤 守正
遠藤 秀和	永松 清明
大城 明幹	成瀬 倉祥
大島 肇	西谷 公男
太田 純子	原田 高志
大塚 具幸	星 久巳
大類 浩	堀江 聡一郎
岡 邦子	増岡 睦美
尾崎 茂一	水越 健
尾畑 圭	森口 優子
片山 泰輔	森下 昭彦
*片山 千米	森下 典彦
加藤 聖隆	山本 重雄
金山 尚弘	山本 明
金子 元	吉江 治彦
金田 好生	吉村 美恵子
木質 賢市	米岡 修一
菊池 光剛	匿名 13名
木内 正則・道子	
小林 光	
近藤 和喜夫	
斎藤 秀子	
佐々木 真利勝	
佐野 利勝	
清水 幹雄	
白井 恭一	
鈴木 信恵	
高澤 美貴子	

●フレンズ5

東 恭代	大野 紀子
有江 純子	和彦
石原 祥子	秋香
潮田 伊織	河野 愛
大川 朋彦	小林 義彦

塩澤 誠司
高際 比呂志
寺西 基之

中島 信男
早川 利郎
松信 正志

村松 秀幸
山口 聡
山田 修造

吉田 哲四郎
匿名 4名

●フレンズ3

秋山 真一郎
明洋 重樹
荒澤 卓志
井上 聡
岩瀬 正明
大津 透
大崎 純
大塚 啓司
大槌 展男
大橋 昌資
岡村 兵衛
岡本 康恭
小川 篤
奥瀬 篤
尾島 夕里
小田切 明子
皆瀬 修
加藤 政晴

加藤 兼子
池田 菊一
木鋪 北川
久保 久保
小泉 久保
河野 小泉
古杉 曾
小林 智子
小山 悦子
佐藤 健司
清水 元
新保 良枝
杉田 弘也

鈴木 明三
関根 善
高坂 麻由子
竹内 あゆみ
田中 美貴子
山田 智広
都築 豊
富永 博之
中村 直彦
中村 元嗣
永井 幸雄
西田 洋一
西田 尚弘
根本 研一
野島 暢明
濱田 秀太郎
林 尚人
*林 美奈子
邊 英正
福田 昭夫

藤田 栄
藤野 盾臣
森松 朗一
松下 一彦
三浦 正典
村田 拓郎
森田 健治
岡 喧子
原 秀影
敷 真平
下山 喜義
山中 義
鏡水 順
横尾 宗寿
横沢 公彦
吉田 真紀子
吉富 美紗恵
吉原 美真
Max Wong
匿名 28名

●フレンズ1

■あ 相磯 浩
赤塚 恵
秋元 淳志
浅里 文男
安達 郁夫
阿部 靖彦
生田 裕一
池田 利昭
石川 由紀
石丸 浩平
磯村 幸一郎
井手 勉
伊藤 雅博
伊東 功
伊藤 貴代
稲垣 順一
稲葉 聖恵
井上 恵
井上 康子
井上 正
猪瀬 邦男
今井 美知子
今宮 知子
今村 淳子
岩澤 淳一
岩野 裕一
岩村 亮
岩本 豪

上田 洋子
白居 正昭
白内 重男
海内 誠
内山 正芳
宇野 拓志
梅里 耕司
梅崎 秀元
梅原 千枝子
梅藤 祐子
江藤 雄彦
大泉 成美
大川 剛
大島 克彦
大島 純二
大島 康彦
大須賀 裕美子
大須賀 徳也
大塚 賢久
大友 英司
大貫 智弘
大貫 由香
大畑 喜信
大堀 慶裕
大森 幸吉
大八木 節子
大和 京子
岡田 浩一
岡田 正道
岡田 美穂

岡野 明徳
岡本 勝利
小川 幾子
小川 徹
奥秋 和歌子
奥泉 亮
奥泉 由美子
奥泉 壮史
奥村 克彦
奥村 茂
小倉 俊文
小澤 雅恵
小野 信也
小野 英樹
小野 純二
尾野 美和
■か 慶子
海藤 大樹
香月 美知子
角山 和雄
方波 伸一
葛城 洋子
加藤 里加子
川上 真理
川口 善行
川名 康一
川野 安子
菅野 広和
菅野 雄平

岸本 裕子
北野 雅子
北村 眞
木下 泰平
木下 好一
木村 強
木村 富士子
木村 一正
清田 理子
久保 宏樹
倉谷 潔
原 健治
小糸 裕子
好士 美
国府 保周
国府 駿乃祐
小寺 淳
小西 敬四郎
小沼 恭二
小林 光一
小林 秀夫
小林 秀樹
小林 浩
小林 光一
近内 友史
近内 敏秋
近内 裕二
後藤 一宏
後藤 齊木

東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

※新会員の方です。ありがとうございました(9月10日現在、五十音順)。

齊藤 ひろ子
齋藤 博
酒井 典子
坂本 タカ子
前刀 禎明
櫻井 智仁
桜林 哲生
佐々木 通博
佐々木 基
佐藤 香
佐藤 幸子
佐藤 信一郎
佐藤 勝
佐藤 大助
佐藤 孜
佐藤 深雪
佐藤 美和子
佐藤 由紀子
重成 瞳
茂野 俊郎
穴戸 宗太
篠田 朗
柴橋 俊也
波川 朋子
嶋谷 宏明
島 知里
清水 重夫
志村 崇
下田 和代
庄司 一彦
白石 大
新藤 ひろみ
杉山 啓次
杉山 慶子
鈴木 啓介
鈴木 康史
鈴木 孝治
鈴木 隆之
鈴木 月穂
鈴木 智子
鈴木 美和
鈴木 眞理子
須田 ミミ
須田 達
清水 達
清水 名美
関 洋
関口 美保
関口 一茂
高岡 和敏
高岡 敏和
高岡 晴彦
高岡 洋二
高橋 嗣奈子
高橋 美穂
高橋 有一
高橋 ユリコ
高橋 里奈
高松 則雄
高村 勝仁

高森 幸男
*龍山 正人
竹内 聖子
竹内 真也
竹内 みお
竹内 竜太
竹内 和彦
竹下 裕行
武田 大
武田 沙智子
田代 遼太郎
田島 泰三
多田 敬子
田中 淳
田中 恒美
田中 慎二
田端 鈴恵
田端 泰弘
田端 正浩
玉井 雅夫
玉井 晴久
千田 絵里
千葉 寛
築館 玲子
辻 直浩
辻内 牧子
坪井 洋一
寺田 治男
遠山 淳夫
登原 明史
豊原 峯生
島居 順子
島居 夕紀夫
中沢 忠
中村 紀美子
中村 利明
長瀬 郁子
永田 通子
長瀨 淳
縄田 直実
西岡 直美
西岡 初美
西川 晶
西川 淑子
西村 真
西村 陽子
西村 英昭
根本 直之
野口 信弘
野口 紀久
野村 一成
野村 真澄
千鶴子
憲人
長谷川 寿一
長谷川 博
秦 実
早川 明男
林 博子
林本 秀範
原 正道

原田 容子
春川 京子
半谷 方枝
坂東 泰子
肥後 恵子
榎谷 亜樹
廣岡 真由美
廣瀬 泰文
廣中 直行
深沢 茂美
藤生 容子
藤原 正之
古市 文子
古川 雄二
古屋 郁子
古屋 清敏
文 永清
星 直樹
細川 由利子
*細田 洋
本多 眞世
*ま 太郎
真木 正司
幕田 明
樹井 美和
升元 和弘
松浦 秀樹
松岡 圭子
松崎 聡
松澤 繁
松本 純
松本 弘
水野 晴彦
水谷 純子
三田 恭博
峯岸 悦子
宮川 健司
宮坂 哲
宮崎 信夫
宮崎 昇
宮寺 好江
宮本 三男
向尾 誠司
村上 泰大
村上 信幸
村本 京子
森 里美
森島 政和
*や 美智子
柳沼 優子
安永 友幸
柳山 裕児
山岸 勇一郎
山口 学
山口 由美子
山崎 恵子
山本 博
山本 俊明
湯川 初恵
横田 秀修
吉居 健志
吉江 眞紀子

吉田 暢子
吉田 裕美
吉富 美紀
吉見 享
吉見 幸子
米田 微光
米田 光

米村 恵子
米谷 由起子
*わ 敦郎
渡辺 磨
渡辺 朋子
渡辺 匿名156名

■ 栄誉会員

ヨーコ・ナガエ・チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付(敬称略)

竹内 容子 岡橋 純男
齊藤 公治 岡橋 孜
メモリアル基金

法人定期会員

【定期演奏会】

東京コンテナ工業株式会社

【東京オペラシティシリーズ】

SATO社会保険労務士法人



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

関根 三善 藤井 照子
小倉 茂 松永 勝宏
都築 豊 森山 雅一郎
坪井 洋一 匿名 17 名
東 由美子 (敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話をお願いいたします。

東京交響楽団サポート会員制度

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。

そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1 年額1万円～29,999円	フレンズ3 年額3万円～49,999円	フレンズ5 年額5万円～99,999円
サークル10 年額10万円～249,999円	サークル25 年額25万円～499,999円	サークル50 年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ 年額10万円～	シルバー 年額30万円～	ゴールド 年額50万円～	ダイヤモンド 年額100万円～	プラチナ 年額1000万円～
------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------	--------------------------

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}	○	○	○	○	○

^{*1} 一部対象外もございます。^{*2} 東京交響楽団の主催公演およびミュージアム川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{*3}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{*3}

^{*3} 但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

NEWS & TOPICS

音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティ、川崎市 福田紀彦市長を表敬訪問

9月14日に、音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティが、楽団長 廣岡克隆、事務室長 荒井宣之と共に、楽団の本拠地・川崎市の福田紀彦市長を表敬訪問いたしました。今シーズンからの音楽監督就任、そして34年までの任期延長のご報告に加え、日頃から様々なご支援をいただいている川崎市への感謝をお伝えしました。今後も様々な共同プロジェクト通して、美しい音楽を届けるだけでなく、次の世代へクラシック音楽の大切さを伝えるべく、長期的なビジョンで取り組んでまいります。



NEXT PROGRAM

11/1
SUN

東京オペラシティシリーズ 第154回
14:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮:大井剛史

ドヴォルザーク:序曲「我が家」op.62
スメタナ:連作交響詩「我が祖国」

¥7,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



©Ayane Shindo

11/28
SAT

第747回 定期演奏会《ユベール・スダーン80歳記念》
18:00 サントリーホール

指揮:ユベール・スダーン

ソプラノ:森麻季 アルト:金子美香

テノール:福井 敬 バス:与那城 敬

合唱:東響コーラス 合唱指揮:根本卓也

ブルックナー:テ・デウム ハ長調 WAB45

モーツァルト:レクイエム ニ短調 K.626

¥8,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,000



©N. Ikegami

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00 ~ 18:00 /土日祝休)



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「10歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコン生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45台カメラを用いた《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R. シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スザン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

2026年4月よりロレンツォ・ヴィオッティが第4代音楽監督に就任。

Founded in 1946 as the Toho Symphony Orchestra, the ensemble adopted its current name, the Tokyo Symphony Orchestra, in 1951. It presents subscription concerts at Suntory Hall, Muza Kawasaki Symphony Hall, and Tokyo Opera City Concert Hall, and has received nearly all major music awards in Japan, including the Minister of Education Award. In addition to serving as the resident orchestra of the New National Theatre, Tokyo, the orchestra is actively engaged in collaborations with local governments such as Kawasaki City and Niigata City, as well as in a wide range of community and educational programs, including the "Kodomo Subscription Concerts" and Kids Programme ~Orchestra Experience from the age of "0 years". Its international activities, including performances at the Musikverein in Vienna and the "Asia Project," have also attracted considerable attention.

The orchestra has further distinguished itself as a leader in digital innovation within the classical music world, being the first Japanese orchestra to launch a music and video streaming subscription service, as well as introducing VR orchestra experiences and electronic ticketing. In 2020, a live-streamed concert without an audience on the Nico Nico Live platform drew approximately 200,000 viewers, and in December 2022, its performance of Beethoven's Symphony No. 9—filmed with a record 45 cameras—garnered widespread attention.

In recent years, the orchestra has attracted significant attention as one of Japan's leading orchestras. In Ongaku no Tomo magazine's "Top 10 Concerts," Salome (2022) was ranked second, followed by Elektra (2023), which was ranked first. The third and final of the project, Der Rosenkavalier (December 2024), also received outstanding critical acclaim.

Lorenzo Viotti becomes 4th Music Director in April 2026.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト「TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION」
1か月550円(税込)



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

Symphony

Symphony 2026年(令和8年)10月号【非売品】

発行 公益財団法人東京交響楽団

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス>

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮した
ユニバーサル・デザインフォントを使用しております。